

## 12人の優しい日本人 主張整理メモ

	事実	有罪とする観点からの意見	無罪とする観点からの意見
1	被告人は家を出る前に子どものためにピザを頼んだ。	その日事件を起こして家に帰れなくなることを予想していた。→計画殺人	注文したピザは子どもには大きすぎる。被告人も帰って一緒に食べるつもりだった。
2	被害者は酒を飲んでいて上に2キロ以上走っていた。それに対して被告人は元陸上の選手だった。	元気な被告人が疲れ切った被害者を突き飛ばした。	被害者は復縁を迫るのにきまりが悪いから酔ったふりをしていただけではないか。被告人も同じ距離を走っていたからそれなりに疲れていたはず。
3	被告人はわざわざ遠回りをして現場に行った。	計画的にバイパスに誘導し、そこでわざと追いつかれた。	スクランブル交差点が赤だったために結果的にバイパスに逃げざるを得なかっただけかもしれない。
4	「被告人は『死んじゃえ』と言った」とおばさんが証言した。	「死んじゃえ」には「殺してやる」などと違って具体的な殺意が込められている。	被告人は「死んじゃえ」と言っていないと言っている。おばさんは「ジンジャーエール」と聞き違えたのではないか。
5	おばさんは「被告人が被害者を突き飛ばすところを見た」と証言した。	おばさんは利害関係のない第三者で嘘をつく理由がない。	おばさんは思い込みやすい。遠くからみただけで暗いし、揉み合っている程度しか分からなかったのではないか。
6	トラックの運転手は「クラクションを鳴らして、急ブレーキをかけたが間に合わず轢いてしまった」と証言した。	トラックの運転手は利害関係のない第三者で嘘をつく理由がない。	クラクションを本当に鳴らしていればおばさんはそこで振り返って事件の瞬間を見ているはず。それなのにおばさんは急ブレーキの音で振り返ったと言っているのでクラクションは鳴らしていないのではないか。トラックの運転手は居眠り運転をしていたので偽証したのではないか。
7	被告人は「一瞬被害者の顔に悪魔の表情がよぎった」と供述した。	自殺説は飛躍しすぎ。	被告人はトラックを背にしていたため、被害者の顔にトラックのヘッドライトが当たったのを見たのではないか。すると、被告人が被害者を突き飛ばすためにはぐるっと被告人の後ろに回り込まなければならぬがそれは非現実的。被害者が自分で発作的に飛び込んだのではない